

“健康と福祉のまちづくり”を目指して

— ようやく歩み出した一歩 —

菅 浜 漁 協 女 性 部
部 長 川 尻 登 志 子

1. 地域と漁業の概況

私達の美浜町は、福井県の西南部に位置して若狭湾に面し、リアス式海岸特有の美しさと三方五湖の湖沼、河川の清流など海、山、川の変化に富んだ自然景観に恵まれた地域である。町内には丹生、菅浜、美浜、日向の4漁協が存在し、各漁協とも従来より共同経営による定置網が主幹漁業であるが、近年民宿、遊漁案内など兼業者も多く、観光漁業が地域の漁業の主体となっている。

2. 女性部の組織と運営

私達の女性部は、昭和35年に結成し、部員数20名で、部長、副部長、会計、出席係各1名で運営や活動に当たっている。

また、昭和35年には町内4漁協女性部（丹生、菅浜、美浜、日向）で連絡協議会を結成し、部員数182名で、役員構成は4漁協女性部長の中から、会長1名、副会長1名、会計1名、を選出しており、活動によって単位女性部活動と連絡協議会活動に分けている。

3. 活動課題選定の動機

地域において何か役立つことがしたいとの思いから、私は30歳を過ぎた頃、音訳ボランティアを始めた。推理小説あり、純愛小説あり、その他いろいろな本を与えられるままに、1日でも早く仕上げ、視覚障害者の方に聞いていただきたいとの思いから、ただただ録音できる時間を見いだすのに一生懸命であった。そんな折昭和58年頃、美浜町社会福祉協議会が各種ボランティアを募集しているのを知り、早速応募した。女性部長と連絡協議会長を引き受けることになったのは、このボランティア活動をしている時である。私たちの住む漁村を見てみると、幸いに核家族の家庭は少なく、賑やかな家庭生活が営まれている。言い換えれば、お年寄りを抱えている家庭が多いということである。私は自分がボランティアをしていることから、会議、雑談に関わらずつつい福祉に係る話を持ち出していたようである。そうしたところ、部員から「私たち女性部が高齢者に関われるボランティアは何かないだろうか、いずれ自分達も通る道なんだから」と誰彼なしに言い出した。直面している問題であるだけに、部員の関心は高く、高齢者に係るボランティア活動に話が弾み、福祉活動をすることに決定したのである。

4. 実践活動状況及び効果

(1) 学習会の開催

まず、高齢化について知識を持とうと町の健康福祉課と社会福祉センターを訪ねた。

ここでは、高齢化率や1人暮らし老人数、配食サービス利用者数を調査し、なぜ寝たきりになるのか等、美浜町内の高齢化の現状を学習した。〈別表1〉

高齢化率については、全国は19%（2003年）、福井県では19.5%、そして私たちの美浜町では27%、さらに町内の漁村地域だけを見ると28.9%であり、地域の高齢化率の高さに驚いた。改めて辺りを見回すと、この家にも、あの家にもと高齢者はおり、間違いなく高齢者問題は「待ったなし」で押し寄せているのである。

次に、寝たきりになる理由を調べてみると、①若夫婦が共働きで、昼間介護する人がいない、②不適切な介護、つまり、安易におむつを当ててしまう、③軽い症状でも無理に安静にさせる、④リハビリの開始が遅れたり、退院によってリハビリが中断される、等であった。

学習した部員達は、「ボランティアという言葉は始終聞いていたが、奥が深いね」、「私たちに出来るのかな」と不安があったが、さらに話し合っているうちに、女性部活動に、ボランティア活動と意識せずに行っている活動が意外と多いことを知り、少しホッとした様子であった。この学習を踏まえ、自分達に出来ることを話し合った結果、調理ボランティアと介護教室の開催、そして食育の推進に取り組むことに決定した。

(2) 調理ボランティア

町では、独居老人宅に週2回の配食サービスを行っていることから、料理上手である女性部員たちは、早速美浜町に調理ボランティアを申し入れたところ、大変喜ばれた。この利用が出来るのは、一人暮らし老人で、対象者は276人（漁村地域56人）で、利用者は80人（漁村地域19人）である。町との話し合いの結果、1回の動員を10名とし、年8回のボランティアとなった。

調理メニューが気になったので、今までのメニューをザッと教えてもらったところ、魚が使われている回数は4割ぐらいであった。そこで私たちは、県女性連が作成した105メニュー掲載の料理集「越前・若狭 旬の肴さかな魚」を持参し、メニューの1品に必ず魚を加えていただくよう町に要望した。町は、この要望に対し、前向きな姿勢を示してくれた。

調理ボランティアに参加した部員からは、「大量の調理の仕方が学べた」、「衛生管理について勉強になった」、「いい経験が出来た」等々の感想が述べられた。このボランティア活動は、平成15年、16年と2年続けたが、今後も継続していくことを確認した。

(3) 介護教室

高齢化率の高い漁村地域において、私たちはせめて家族の、できれば地域のお年寄りの介護の手助けをできるようになろうと介護教室の開催を計画した。幸いに連絡協議会では6名の部員がヘルパー2級を持ち、1名が介護福祉士の資格を持っている。そこで、この部員を中心に内容と講師について検討し、講師は介護普及センターに依頼した。資格を持っている部員は補助者を努め、5回シリーズで開催することとした。

- | | | |
|-----|----------|-----------------------------|
| 第1回 | 講義 | 「介護保険制度について」 |
| 第2回 | 講義、実習、展示 | 「寝たきりの人のシーツ、おむつ交換、各種おむつの展示」 |
| 第3回 | 講義、実習、展示 | 「ベット⇄車椅子への移動の仕方、福祉用具展示」 |
| 第4回 | 講義 | 「痴呆にならないために ～予防と介護～」 |

第5回 講義、実習 「音楽療法について ～心と体のリフレッシュ“ミュージックケア”～」

参加した部員は毎回50人前後であったが、「とても楽しく受講できた」、「本当はこの講習が役立たねば良いのだが、もしもの時にはとても役立つと思う」、また、寝たきりの老人を抱えている部員からは、「今まで我流でしていたことでも、講習を受けたことにより自信が付いた」、「ちょっとしたコツがわかり、よけいな力を出さなくて良くなった」、「今までだと腹が立ったことでも、“まあ、いいか”、“まっ、仕方ないか”と思えるようになった」、等々の声が聞かれた。そして、またこのような講習会を開催して欲しいとの要望が出された。

(4) 食育の推進

福井県では盛んに「地産地消」、「食育」が唱われている。私たち女性部も、「健康な食生活には良質な蛋白源である魚を！」と、地元で水揚げされた魚の有効利用並びに食育の推進に力を入れている。県女性連の呼びかけで取り組んだ魚の着ぐるみの「寸劇」が、NHKを初め各報道機関に取り上げられ、とても好評を得た。今後、この着ぐるみは各幼稚園や小学校、あるいは敬老会などの催しに貸し出したり、私たちが出かけて演じるなど多いに活用し、食育の推進を図ることにしている。なお、地産地消については、連絡協議会の中で2グループが水産物の加工等に取り組み、起業化を目指してがんばっている。

(5) その他の活動

a. イベントへの参画

・美浜町制50周年記念・産業祭

一昨年の町制50周年には、漁協女性部に1,500食の弁当依頼があり、たこ飯、へしこサンドイッチ、へしこおにぎりを作った。その他、漁村ならではの「えごの和え物」、「さかなの味噌汁」、「さかなの揚げ物」等々を即売したが、飛ぶように売れた。また、展示会場には、大好評の県女性連作成の魚料理集や箱めがね、さざえ網、たこつぼなどの実物展示や、介護教室、配食サービス、料理講習会などの写真展示をし、会場を訪れる町民に漁協女性部活動をPRした。

平成16年の産業祭では、焼きさばの味噌汁を振る舞った。また、ちょっと下降気味になっている各種「わかしお」石けんのPRと販売をし、水環境保全を訴えた。

b. その他

・古切手回収・漁協周辺並びに海浜清掃・敬老会への参画・花壇作り等、定期的に行っている。

5. 波及効果

「福祉活動」と一言で言うが、いろいろな福祉活動があることを改めて認識した。

介護教室開催後、ヘルパーの資格を取ろうかなという部員が出てきたことは、今後、福祉活動の輪がさらに広がると期待する。また、独居老人宅に配られる弁当のメニューに、さかなメニューの組まれる回数が多くなったことは、私たちの声が反映されたと思い喜んでいる。今後は、漁村に眠っているメニューの発掘や開発に心がけ、機会あるごとにメニューの提供をしていきたいと思っている。また、高齢者やその家族が必要なサービスを、いつでも、どこでも、だれにでも適切に受けられるケアサービスとはどうあ

るべきかなど、町に対して意見を反映できるような活動にしたい。

昨年、平成16年度福井県農林漁業賞（活性化部門）を受賞した。この賞は、目的意識を持った活動を行い、地域の活性化に貢献した者に贈られる知事表彰である。先輩が行ってきた活動の成果が認められたものである。その活動を私たちは引き継いでいることに誇りを持っている。

6. 今後の課題

高齢化が進む私たち漁村地域において、介護は大きな問題になっている。行政に頼ることばかりを考えるのではなく、地域住民で出来ることと、行政等の力を借りることとの区別をし、上手に取り組んでいかねばならない。それには、福祉に対する地域住民への啓発活動をするとともに高齢者や障害者にやさしい環境整備が必要である。今住んでいる漁村が安心して生活でき、明るい笑い声があちこちで聞こえてくるよう、私たち女性部も微力を尽くしたいと思う。

また、高齢者、障害者ともに、自立への対応が大切であることから、私は平成12年より、授産所「川尻さん家の作業所」を開設し、小さな活動をしている。今後とも、自立への対応が大きな課題であると思う。

地産地消、食育の推進においては、私たちが制作した「さかなの着ぐるみ」をフルに活用し、子供から老人まで「安全・安心な魚」のPRに努めなければならない。

いろいろな活動の取り組みには、部員同士の連携が不可欠であることから、活動に関わる視察を交えながらの旅行や、イベント後に打ち上げをしたりし、部員相互の親睦を高めている。

ようやく歩み出した福祉活動の一步、終わりのない女性部活動だから、気負うことなく取り組む姿勢でもって、息の長い活動を続けていきたい。

美浜町 漁村地域の高齢者数等

項目 地区名	人 口 (人)	高 齢 者 数 (人)	高 齢 化 率 (%)	1人暮らし 老人 (人)	配食サービ 利用者 (人)
丹 生	3 2 8	9 0	2 7 . 4	6	0
菅 浜	5 2 8	1 3 6	2 5 . 8	4	2
美 浜	7 7 7	2 5 1	3 2 . 3	3 2	1 3
日 向	7 6 3	2 1 6	2 8 . 3	1 4	4
漁村地域 計	2, 3 9 6	6 9 3	2 8 . 9	5 6	1 9
全 体	1 1, 4 7 8	3, 1 0 4	2 7 . 0	2 7 6	8 0
基 準 日	H16. 10	H16. 10	H16. 10	H17. 1	H16. 6

※外国人含まず